

一般財団法人 日本生物科学研究所
第二研究会開催のお知らせ

近年の日本脳炎の流行状況

林 昌宏 先生

国立感染症研究所ウイルス第一部第二室

日時：2023年7月24日（月） 13:15 - 15:00

場所：オンライン開催

【要旨】

近年蚊によって媒介されるウイルス感染症の流行域が急速に拡大し、新興・再興感染症として世界的規模で問題となっている。日本脳炎ウイルス（JEV）は、フラビウイルス科フラビウイルス属日本脳炎血清型群に分類されるウイルスであり、エンベロープを有する直径約50 nmの一本鎖球状（+）RNAウイルスである。JEVは主にコガタアカイエ蚊（*Culex tritaeniorhynchus*）によって媒介される節足動物媒介性ウイルスであり、日本では主に蚊と増幅動物であるブタの間でその感染環が形成されている。ヒトはJEVに感染した蚊に吸血されることで感染する。日本脳炎は特に乳幼児と高齢者において重篤化する傾向にあり、その死亡率は20～40%で、幼少児や高齢者では死亡の危険が大きい。日本脳炎は日本、中国、韓国等の東アジア、アフガニスタン、インド、スリランカ等の南アジア、フィリピン、ベトナム、タイ、カンボジア、ラオス等の東南アジア、パプアニューギニア、オーストラリアにかけて24の国と地域で流行している。WHOの推計によると毎年世界で約67,900人の日本脳炎患者が発生し、このうち51,000人は15歳未満の小児であるとされる。わが国は日本脳炎の流行地域であり、1966年まで毎年数千人の日本脳炎患者が報告されていたが、現在日本脳炎患者の大規模な発生は、乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンの定期接種等により制御されている。しかしながら、高齢者を中心に毎年10名前後の患者が報告されており、今後もその対策が求められる。



主催
一般財団法人 日本生物科学研究所
NIBS <http://nibs.lin.gr.jp/>